

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	別海町立上西春別小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1		6	12
児童数	28	24	31	35	37	26		181	

研究の概要

1. 研究主題

主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けていく子どもの育成
～指導と評価の一体化を図り、個に応じた指導の充実を目指す学習指導の研究～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～6年算数
児童の理解に差が出やすい教科であるため。
- ・ 1～6年国語
学校として当該教科に関する研究実績があるため。
- ・ 全学年の算数及び1～4年の国語で複数の教師による協力的な指導を、5・6年の国語と算数で教科担任制を実施する。

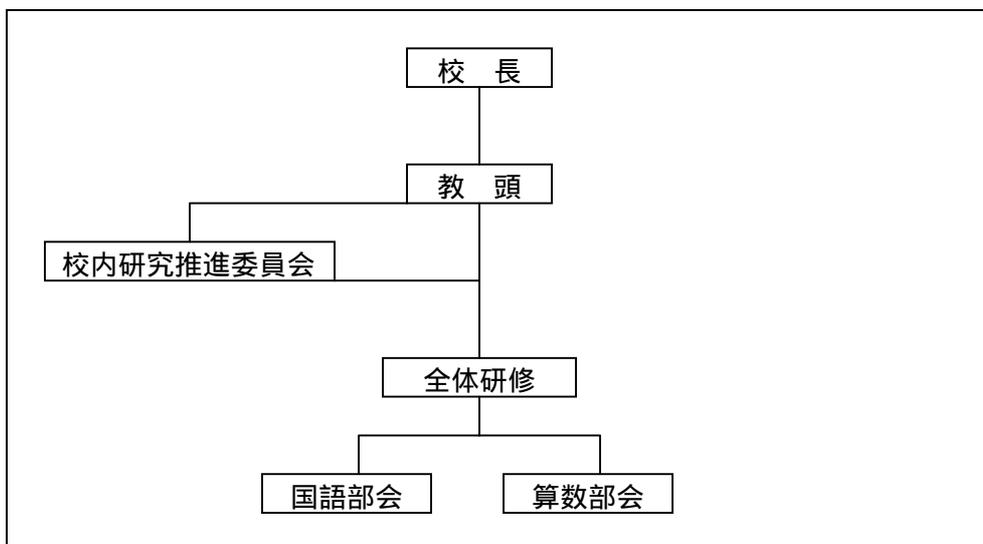
(2) 年次計画

平成 14 年度	<p>テーマ 「自ら考え、他とのかかわりを通して自己を高める子どもの育成」 仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育てたい力を明確にした上で、子どもにとって魅力ある教材を工夫し、学びの過程において自分でじっくり考えたり他とのかかわる場を適切に設けたりすることにより、子どもたちは自ら考え、他とのかかわりを通して自己を高めることができるであろう。 ・ 教師が子ども一人一人の学びの様子を記録累積し、個々のよさやつまずきなどについて適切にかかわることで、子どもたちは自ら考え、他とのかかわりを通して自己を高めることができるであろう。 <p>研究内容・方法 国語科と算数科において、次の視点で実践研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育てたい力を明確にした上での教材・指導計画の工夫 ・ 指導方法・指導体制の工夫 ・ 評価を指導に生かす工夫
----------------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 「主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けていく子どもの育成」 仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 育てたい力を明確にし、評価計画を位置付けた指導計画を作成するとともに、学習形態や複数の教師による協力的な指導など、個に応じた指導を行うことにより、子どもたちは主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けていくことができるであろう。 教師が子ども一人一人の学びを記録累積し、個々のよさやつまずきなどに対して適切にかかわることにより、子どもたちは主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けていくことができるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 育てたい力を明確にし、個に応じた指導の充実を目指す指導計画の工夫 個に応じた指導の充実を目指す学習形態・指導体制の工夫 評価を指導に生かす工夫 前年度の成果と課題を検討し、学力向上フロンティア事業の充実を目指し、研究主題及び仮説、研究内容に変更を加えた。
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けていく子どもの育成」 仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 育てたい力を明確にし、評価計画を位置付けた指導計画を作成するとともに、学習形態や複数の教師による協力的な指導など、個に応じた指導を行うことにより、子どもたちは主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けていくことができるであろう。 教師が子ども一人一人の学びを記録累積し、個々のよさやつまずきなどに対して適切にかかわることにより、子どもたちは主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けていくことができるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導の充実を明確にする指導計画の工夫・改善 個に応じた指導の充実を図る学習形態・指導体制の工夫 評価を指導に生かす工夫・改善 子ども一人一人の学力の高まりを客観的にとらえる評価方法について研究
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

指導計画の工夫について

- ・ 指導計画に「育てたい力は何か」を意識し、単元の目標や「基礎・基本の柱」（子どもが基礎・基本を習得するための中核となる活動）評価規準、評価方法を位置付けることにより、子ども一人一人の学習状況を見取り、指導に生かすことができた。
- ・ 指導計画に、複数の教師が子どもの学習状況に応じて役割を分担してかかわることを明記することにより、「努力を要すると判断される状況」の子どもへの指導の手立てがより明確になり、個に応じた指導が充実した。

指導方法・指導体制について

- ・ 複数の教師により協力的な指導を検討することにより、個別学習やグループ別学習などの様々な学習形態が工夫され、個に応じた指導が充実した。特に、「理解や習熟の程度に応じた学習」では、コース別学習を行うことにより、「努力を要すると判断される状況」の子どもに対して、きめ細やかな指導を行うことができた。
- ・ 3・5年生を対象とした意識調査によると、コースに分かれて学習することについて92.5%が「よくわかる」と答えている。
- ・ 教科担任制の実施（5・6年の国語及び算数）では、2学年間の領域や単元の系統性をより意識した指導を行うことができた。また、学級担任と教科担任が授業における子どもの様子について細かに情報交換することにより、多面的に子どものよさやつまずきを把握し、指導に生かすことができた。
- ・ 5・6年生対象とした意識調査によると、90%以上の子が教科担任制について「勉強の内容がよくわかる」と答えている。

指導に生かす評価について

- ・ 評価規準に基づき、学習の実現状況を見取ることにより、つまずきを的確に把握し、指導に生かすことができた。
- ・ 単元の評価規準をもとに、各時間の評価規準を設定することにより、単元を通して学習状況の評価し、指導に生かす工夫がなされ、意図的・計画的な教師のかかわりや子どもの学習意欲を持続させた指導が行われるようになった。

2. 今後の課題

- ・ 年間あるいは、2学年を見通した育てたい力の明確化と単元の目標や内容に応じた指導体制や指導方法の工夫が必要である。
- ・ 複数の教師による指導については評価規準を基に学びの質的な高まりや深まりから育てたい力を吟味し、さらに研究を深める必要がある。
- ・ 子ども一人一人の学力の高まりを客観的にとらえる評価方法について研究を深める必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 年1回（3学期）全学年で教研式標準学力検査（CRT）を実施し、結果を分析し指導に生かしている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 平成15年11月28日に、本校において公開研究会を開催し、研究成果等について協議した。また、道東地区学力向上推進協議会も併せて実施した。
- ・ 研究成果等をリーフレット（研究紀要）にまとめ、複数の教師による効果的な指導について根室管内各小・中学校、道内フロンティアスクールに配布した。
- ・ 北海道教育課程改善協議会や10年経験者研修に本校職員が参加し、本校の実践例を紹介した。
- ・ 近隣の学校と共同研究体制をとり、研究成果等について交流している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--------------|----------------|------|----|
| 【新規校・継続校】 | 1 5 年度からの新規校 | レ 1 4 年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | レ 6 学級以下 | 7 ~ 1 2 学級 | | |
| | 1 3 ~ 1 8 学級 | 1 9 ~ 2 4 学級 | | |
| | 2 5 学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 | レ T . T による指導 | | |
| | レ 一部教科担任制 | その他 | | |
| 【研究教科】 | レ 国語 | 社会 | レ 算数 | 理科 |
| | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 |
| | 体育 | その他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | レ 有 | 無 | |